

ぼくぼく弁当

～大陸からの刺客～

レビュー

五月某日、早稲田通りに突如として現れた「ぼくぼく弁当」という弁当屋をご存知だろうか。作り置きした弁当をレンジで定期的に温めて温度を保っているという噂の恐ろしい弁当屋である。噂の真偽と味を確認するため、私は調査に向かった。大学から馬場歩きをしていると、右手側、井丸の隣に店は見つかる。前のテナントである金峯堂という古書店の看板が撤去されておらず粉らわしいが、店の看板には「全品280円」と書いてあるではないか！なんて貧乏早大生に優しいんだ。早速店に入り、みると、相当な量の弁当が作り置きされている。どうやら注文を受けてから作るのではなく、この中から選んで買うようだ。大量の弁当が整然と並べられている様子が中々社親だが、果たして何時間前に作られたものなのだろう……。

インタビュー

どことなく大陸顔の店員に話を聞いた。どうやら日本語能力に欠陥があるらしい。

店「安いですね」
 店「イラシャイマセー」
 店「ちょっとお話を伺っても…」
 店「…？ イラシャイマセ」
 店「あの、この安さの秘密下すとか、色々お話を聞きたいんですが…」
 店「…？ ア！、シャチョさんフルカラ、アトデ」
 店「お弁当をレンジで温めているというのは本当ですか？」
 店「シャチョさんフル！ アトデ！」
 これ以降、何を聞いても「シャチョさん」の一点張りだった。おそらくシャチョさんのおが日本語を教えるのだろう。私はシャチョさんを待たせ一向に来る気配がないので、店員におすすめされた「油淋鶏弁当」を何故か表示と違う295円で購入し、帰路についた。

容器を開け、なぜか「ぼくぼく弁当」と書かれた割り箸入れから箸を取り出して油淋鶏をほおばる…味が濃い。かなりご飯は進むが、ボリュームに欠ける。これは他のメニューにも言えるのだが、おかずの少なさを味の濃さ、しゃぼさでなんとかしているのである。だが295円ということ考えると及第点であらう。

麻栗物質を求めるならおせせん、生暖かいフルーツなどにぎやかな味が欲しい時はいねや、しゃばい清け物と唐揚げがおいしいきたて、など強豪揃いの早稲田界隈。立地条件の悪い(本キャンから徒歩+数分)中、ぼくぼく弁当は今後どのような戦略を展開するのだろうか。



外観。



弁当。

ゴジツダン

その後もシャチョさんに会って話を聞こうと何度も足を運んでいるが、彼にはいつ来ても会えない。彼は本当に存在するのだろうか。それともレンジの件について突っ込まれた店員の一時的のぎから生まれた虚像だったのだろうか。ただどちらにしろ店内のレンジは一台のみで、あれだけですべての弁当を何度も温め直せるのはとても思えない。噂は嘘だったと考えるのが妥当であらう。現に私が購入した油淋鶏弁当はすでに冷えており、米がボソボソになってしまっていた。

だが、未だぼくぼく弁当の全容はま、たくの謎に包まれている。まだ見ぬシャチョさんに会えるその日まで、私はぼくぼく弁当に通い続けるだろう。

ワセコミ

-8- カワラバニ

4月27日、JR
 ほど歩いたとこ
 に店を構えた。
 である。
 ワンカラは最近
 している。その栄
 場が選ばれた。し
 日馬場にはすでに
 玉に紅絶な顧客
 行と新規店舗開
 うが。また、ワン
 日、土日祝日が初
 ン店より割高だ。
 のレンタル代を足
 はワンカラの1人
 筆者は電話でな
 本キャンである高
 りかなり高くない
 こと。
 ① なぜ高田馬場
 ② 会社が幸に
 ており、(一
 まがき学生様
 さまです。
 ③ せるほど、し
 が割高ではな
 ④ たしかに値段
 実家にご来店
 お客様に満足
 します。
 ⑤ 目も立ち、全業
 場に説明してく
 行に自信があるよ